

伊勢湾の汚濁が進行する原因

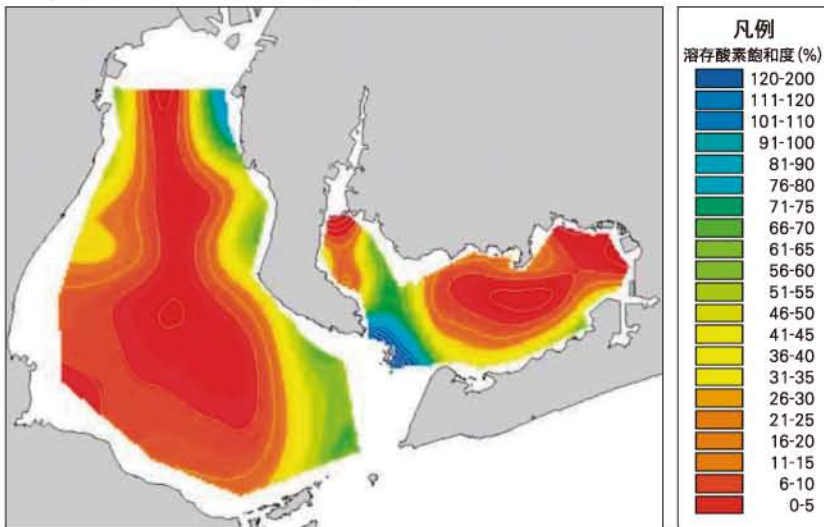
○赤潮、苦潮(青潮)になるメカニズム



▲提供：伊勢湾環境データベース 学習コーナー

- ①排水などの中の窒素やリンが海へ流入
→富栄養化(栄養分が豊富になる)
- ②植物プランクトンの大発生
→赤潮の発生
- ③植物プランクトンの死骸が沈殿
→海底にヘドロがたまる
- ④ヘドロの分解のために酸素が消費される
→貧酸素水塊が海底にできる
嫌気性細菌が有毒な硫化水素を生成する
- ⑤貧酸素水塊が硫化水素とともに浅瀬にわきあがる
→苦潮(青潮)の発生

○貧酸素水塊の状況



伊勢湾の貧酸素水塊は、例年7月になると湾の中央部に広がり、8月～10月にかけて拡大します。
愛知県及び三重県水産試験場では、6月から10月にかけて貧酸素水塊の形成状況をモニタリングし、情報提供を行っています。

溶存酸素飽和度	溶存酸素濃度	魚介類への影響
50%	約4mg/l	魚類・甲殻類に悪影響
30%	約2mg/l	貝類・底生魚類の生存困難
10%	約0.8mg/l	全ての底生生物の生存困難

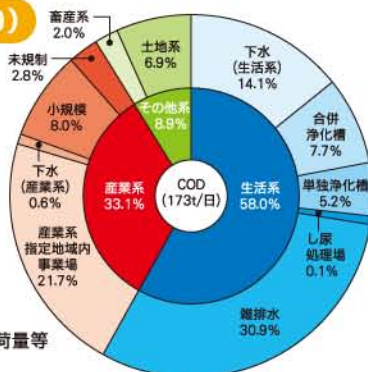
※愛知県水産試験場では、溶存酸素飽和度50%以下を低酸素、30%以下を貧酸素としています。

伊勢湾：7月1日・3日、三河湾：7月2日・3日 平成20年(2008年)
出典：伊勢三河湾貧酸素情報 (H20-4号) (愛知県水産試験場)

○流入する汚れの内訳

伊勢湾の負荷量構成比(COD)

COD: 主として有機物による水の汚濁の程度を示す指標で、水中の汚濁物質が化学的に酸化するとき消費される酸素量で表します。被酸化物質(汚れ)が多い程、大きい数値になります。



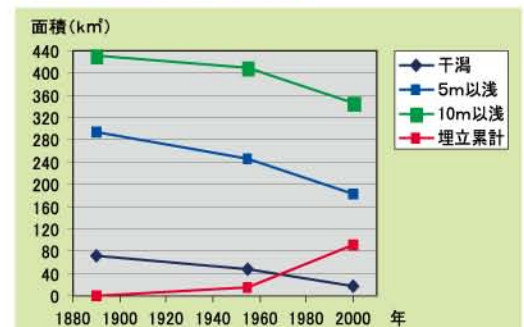
出典：平成19年度発生負荷量等算定調査報告書

陸域から伊勢湾に流入する汚れは年々減少傾向にあります。伊勢湾の水質はなかなか改善がすすみません。

伊勢湾に流入する汚れ(COD負荷量)の約半分は、トイレ、台所、風呂、洗濯などの日常生活から排出される生活系の排水によるものです。なかでも雑排水(トイレ以外の排水のうち、下水道や合併処理浄化槽で処理されていないもの)による汚れがまだ多いです。一人一人の取り組みが、効果を発揮する可能性があります。

○浄化するしくみの減少

干潟などの面積の変化



出典：水野知巳(2003)「干潟・藻場・河口域の現況と変遷調査」『三重県科学技術振興センター共同研究報告書』

浅い海域に生息する生物は豊かな幸を恵んでくれるだけでなく、水を浄化する役割も果たしていました。

しかし、これらの生物が生息していた干潟や浅い海域は、開発に伴う埋め立て等により、減少してしまいました。